

北海道知事 高橋 はるみ 様

「平取ダム建設についての話し合いを求める要望書」に対する
誠意のない回答に抗議する

2012年10月29日
北海道脱ダムをめざす会

私たちは、北海道開発局の平取ダム検証結果報告書（原案）に対する10月29日の知事意見の発表に先立つ19日に、「平取ダム建設についての話し合いの要望書」を提出しました。10月26日付で、建設部土木局長名で、「道といたしましては、「再評価実施要領細目」に基づき道が行なう関係町からの意見聴取に加え、「関係地方公共団体からなる検討の場」における議論、パブリックコメント、関係住民及び学識経験者の意見などを総合的に判断し、対応方針（原案に対する意見を回答することとしております。」と回答がありました

これを受けた私たちは、道民を代表する人としての貴職の誠意を疑います。ここで、誠意とは、他人に意見を求められた時にきちんと対応するという当たり前の心を意味しています。

貴職ではなく土木局長が回答した問題

二つのことが想定されます。

一つ目は、貴職は専門家ではないので専門家の土木局長に回答をまかせた、ことが考えられます。そうであれば、貴職名で回答をだして、その旨を書いて、土木局長の回答を示すべきです。しかし、この場合は貴職の官僚まかせの姿勢が問われます。

二つ目は、土木局長が、知事に任せるのは困難と判断して、知事の判断を仰がず回答した場合です。これはあってはならないことです。

一つ目であれば、貴職名がないのは、誠意に欠けることです。二つ目であれば貴職の管理能力が疑われます。

回答内容

私たちが話し合いを求めた根拠は、要望書にも書いた通り、一昨年11月に二風谷ダムサイトで私たちと会って、貴職が「公開の場で意見を聞いて集約していきたい。」と述べたことにあります。また、貴職に、ダムに批判的意見も聞いてもらいたいという私たちの気持ちもありました。上記土木局長の回答は、私たちが具体的に述べたアイヌ民族の文化について一言も触れていません。そこで、あらためて、私たちの意見を簡潔に述べます。

1. 二風谷ダム堆砂問題・・・開発局の説明では、二風谷ダムには年平均108万³の堆砂があり、ダム容量のすでに45%が堆砂で失われています。開発局は今までも、3年前にこれからは堆砂がほとんど進まないと言ったのに、3年間で140万³堆砂量が増加しています。堆砂量が増加すれば洪水調節機能も落ちます。貴職は、開発局の言うことを信用しているのでしょうか。

2. 平取ダムの堆砂問題・・・開発局は、平取ダムの堆砂は少ないと説明しています。

二風谷ダムについても当初は、100年間の堆砂量は貯水容量の15%にとどまると述べていましたが、ダムができて15年間ですでに45%の堆砂となっています。私たちは、土砂供給量の多い額平川に造る平取ダムも二風谷ダムの二の舞となると考えています。貴職は、開発局を信じるのでしょうか。

3. アイヌ民族の文化問題・・・貴職は、故萱野茂夫人の萱野れい子さんは、公述人として、アイヌ文化との関わりが深い流域への平取ダム建設について「できれば、できない方がいい」と反対意見を述べたことをご存知だと思います。貴職は、国会議員だった故萱野茂氏宅に足を運ばれアイヌ文化について意見を交わされました。れい子夫人ともきっと面識があることでしょう。貴職の個人的な思いに加えて、北海道のアイヌ民族の文化を継承・発展させることは、貴職の重要な政治的役割です。額平川流域を中心とした地域をアイヌ民族の聖地として、世界文化遺産に遺すことが、北海道の地位を国際的に高めることは間違いないと考えられます。そこに平取ダムができれば、これは夢と化してしまいます。貴職は、アイヌ文化の消失もあえて行なうほど、平取ダムを造る重要性を認識しておられるのでしょうか。

関係住民の声

回答では、「関係住民の意見」を判断材料とすると述べています。10月3日に行なわれた住民の意見を聞く場では、7名の公述人のうち4名が平取ダム反対を表明しました。このことも貴職の判断材料に入っているのでしょうか。

誠意ない回答に抗議

これらの諸問題について、私たちの考えと異なる場合でも、明確なご意見を述べるのが、政治家としての貴職の責任です。貴職が任務を全うするために、貴職の道民との信頼関係が欠かせないということをお考えになっているのでしょうか。今回の、要望書に対する対応は、この信頼関係を傷つけるものです。見解が異なっても、誠意をもって対応するのが政治家のあるべき姿だと私たちは考えています。本日の、貴職の回答については、厳しく抗議するものです。

貴職が、2010年11月に二風谷ダムサイトで、私たちに、「公開の場で意見を聞いて集約していきたい。」と述べたのは、2011年4月知事選を意識したパフォーマンスではなかったのか、という声もでています。実際にその後、それまで開催されていた道との意見交換会は開催されなくなりました。今後の貴職の、私たちだけでなく、道民への誠意ある対応を要望して、私たちの見解といたします。

北海道脱ダムをめざす会構成団体

- ・(一般社団) 北海道自然保護協会 会長 佐藤謙
- ・十勝自然保護協会 共同代表 安藤御史・佐藤与志松・松田まゆみ
- ・北海道自然保護連合 代表 寺島一男
- ・富川北一丁目沙流川被害者の会 代表 中村正晴
- ・平取ダム建設問題協議会 代表 松井和男
- ・苫小牧の自然を守る会 代表 館崎やよい
- ・ユウバリコザクラの会 代表 藤井純一
- ・イテキ・ウエンダム・シサムの会 代表 佐々木義治

- ・胆振日高高校退職教職員の会 代表 高橋 守
- ・自然林再生ネットワーク 代表 前田菜穂子
- ・下川自然を考える会 会長 千葉永二
- ・サンルダム建設を考える集い 代表 渋谷静男
- ・環境ネットワーク旭川地球村 代表 山城えり子
- ・大雪と石狩の自然を守る会 代表 寺島一男
- ・旭川・森と川ネット21 代表 平田一三
- ・当別ダム周辺の環境を考える市民連絡会 代表幹事 安藤加代子